

第49回甲賀市水道事業審議会 概要報告

1. 開催日時 令和6年2月2日（金） 午後2時00分から午後3時20分まで
2. 開催場所 あいこうか市民ホール 練習室3
3. 議 題 令和6年度甲賀市水道事業会計予算（案）について
4. そ の 他 令和6年能登半島地震に係る対応について
5. 公開又は非公開の別 公開
6. 出席者
委 員 西谷委員、岩田委員、岡川委員、吉村委員、池本委員、
梅本委員、鵜飼委員、田中委員、成田委員 以上9名

事務局 上下水道部 中島部長、西田次長
上水道課 柚木課長補佐、片木係長
上下水道総務課 谷口課長、伴課長補佐、武村係長、和田係長
7. 傍聴者数 0人
8. 会議資料 別紙のとおり
9. 議事の概要

○出席委員数の報告

出席委員は10名中9名で、委員の3分の2以上の出席であることから、甲賀市水道事業審議会条例第5条第2項の規定により、会議が成立していることを事務局から報告

○会議内容の公開又は非公開について

会長 本日の会議内容の公開、非公開についてであります。当審議会は市の附属機関にあたりますので、公開が原則であります。

資料には個人情報等非公開にしなければならない内容は含まれてございませんので、全て公開とし、議事録での発言者は個人名ではなく、委員として公開させていただきます。

（全員異議なし）

○議題

事務局 ―― 令和6年度甲賀市水道事業会計予算（案）について

（質疑）

会長 資料7ページと投資財政計画の決算見込み額が異なるのはなぜか。

事務局 資料7ページは税込み額、投資財政計画は税抜き額で表示しているため違いが出ています。

会長 税込みと税抜きの違いということですね。
同じ科目で税込み・税抜きとなって、表現上読みにくいかもしれません。

委員 主婦目線になるが、琵琶湖の水位が下がり、節水という話が出ているみたいで、甲賀市は節水になるような水道はあるのか。

事務局 甲賀市の水道は琵琶湖からは取水していませんので、今のところ連絡は来ていません。

委員 儲けを上げるには水道を利用してもらわないといけないが、節水となれば儲けは出ないと思います。やはり節水の呼びかけがあったときは、儲けよりも節水を優先するべきなのか。

事務局 経営としては使っていただいた使用料金を事業をするということが一番良いのですが、節水をお願いしたときは節水に心がけていただいて、繰入金などで事業費を確保するなど、バランスを取りながら進めていきたいと考えております。

甲賀市は青土ダムの水位が90%ありますので何とかなっています。市民に協力を求めるレベルではない状況ですが、官公庁としては公用車を洗うのを減らすとか、施設で節水するなどの通知は知事から届いている状況です。

会長 基本的なスタンスとして、儲けるためにはやってませんので、どうにかして水をたくさん使ってもらって収入を上げていくということではないです。

今、琵琶湖の水位は、先週より10センチほど戻り、マイナス63センチぐらいになっています。

ただ、緊急事態となれば、おそらく知事から節水を全市町に呼びかけることになるとは思いますが、もしかしたらなんとかなるのではという感じです。

委員 財源に関して、いくつかのマイナスが出ているということと、補填財源で補うとの説明をいただいたが、この金額は例年並みか。安心していい数字なのか。

事務局 起債は、年間4億円という上限の中で借り入れて、事業費11億円ぐらいで毎年事業をしています。

補填財源の積み立てをしながら、耐用年数内に施設の更新を行う事業計画を組んでいますので、年によっては事業の増減がありますが、財源確保をした中で事業を実施していけるという経営状況です。

会長 上水道は収入があります。皆さんに水を届けるためのコストとその差額が利益という形で、今年だと3億ちょっとになります。

その3億ちょっと儲かっているのかと言われたら、そうではなくて、皆さんに届ける水道とは別に工事をしていかないといけない。いろんな工事の資金にその利益は全部使われる。あるいは貯めておくこともできる。それでも足りないときには、役所本体からお願いすることとなる。

工事については、道路の工事の兼ね合いなどもあるが、一旦は令和14年度まで計画して、その都度、予算の範囲内でやり繰りしているということになる。

甲賀市が他の市とちょっと違うのは、有収率が低いというところ。漏水が起きると料金を回収できない水がいっぱい出るので、収益は上がらないうえにコストがかかることになる。

現状は、全体的には予算の範囲内でいけているところと理解しています。

会長 この投資財政計画だと、収益は人口減少とか、節水機器が使われていくというのを見込んで減っていくが、減価償却費を見ると増えていっているのが分かる。

今のところ、まだ何とか利益が出ているので、甲賀市では喫緊の課題にはなっていないが、他の全国の市町村では、どこもだいたい20パーセントくらい上げている。県内では、この前は栗東市で、コロナ前には大津市が20パーセント値上げしている状況。

委員 繰越予定箇所工事の場所はどのように決めているのか。信楽の方に偏っているような印象もある。

事務局 資料の第2次水道ビジョン実施計画、繰越予定箇所図、令和6年工事箇所図をご覧ください。基本はビジョン実施計画により予算化して工事を進めています。ただ、資材が入ってこないなど年度末になってどうしても完了できない場合は、翌年度へ繰り越すこととなり、その事業を箇所図とビジョン実施計画に「繰」で記載しています。

旧町の時代に下水道を整備されてきたところは、更新がされているため工事量が少ないです。信楽は、今、下水道整備を行っている地域でもあり、整備が終わった地域より多くなっている状況です。

委員 今後、工事に係る調査をしていくのか。

事務局 全体のアセットの中で施設の整備時期や現状を点検して、緊急度の高いものから更新する計画を立てています。

委員 能登地震で水の大切さが分かった。水道業者が減ったとかあるのか。

事務局 事業者数が減った実感はないですが、人手が足りなくて困っているという声は聞きます。

委員 大事なことなので、工事が早めに進められたらと思う。

委員 職員給与費は、市職員全体か水道事業の職員分のみか。

事務局 上下水道部の水道に関する職員の給与費です。人数については、20人で計上しております。

会長 投資財政計画では年々減っていつている。人数は基本的に変わらずに金額を振っているという事でよろしいか。

事務局 投資財政計画の人件費、給与費ですけれども、決算と書いているところについては、人数、手当は実績となります。

見込みの令和6、7年度以降のところについては、給与費はベースアップ分が上昇している、動力費、修繕費、材料費等については物価上昇をおおむね1パーセント程度の平均で見た中で計画を立てています。

○その他

事務局 —— 令和6年能登半島地震に係る対応について

(質疑)

委員 給水車の水の補充はどうしていたのか。

事務局 当初は、能登町外まで汲みに行っていたのですが、今は能登町内で水を汲んで配って回っている状況です。

委員 今後も派遣があるのか。

事務局 日本全体で助けていこうとなっておりまして、日本水道協会の関西地方支部からの要請で滋賀県は能登町で活動しております。私どもは彦根から引き継ぎまして、現在は2事業体が給水車2台で給水活動を行っております。

この給水活動が終わりますと、今後は、甲賀市は2月26日から10日間

くらいの間、水道管を直していく予定です。能登町の上水道施設の復旧応援で、甲賀市の維持係の職員で水道管が破裂したときに直すチームが4人ほど、甲賀市がお世話になっている管工事共同組合の組合員さんが5名ぐらいの8～9人ぐらいを派遣する予定です。

会長 こういうときにも地域の業者も一緒になってやっていくというのは、なかなか知られていないと思う。

 これがまた南海トラフで起きて、もっと広域になったときには、お互いに助け合える能力をどれだけあるのかなということ、皆さんいろいろと準備をされている。

 また、現地で運んでいる水の料金などはどうなるのかという細かい話なんかも、政府から補助が出たりするのですが、そこは皆さん方と手元にある数字を見ながらやっていくことになると思います。

委員 地震に強い給水管を埋設する工事をしていて、ありましたが、そもそものくらいの想定をしていて、それを越えたのか、想定していた範囲なのに事故になったのか。見極めるのは非常に難しいと思うが、その辺のことは見直してやっていかないと、と思う。

事務局 大きい地震などがありましたら、各メーカーが製品の状況・報告をするのが常です。

 昔はいいとされていたものが、今となっては見直しが必要なものもあるので、そういう見直しや新しい技術を私どもも勉強していかないといけない。

委員 市から発注する際に、こういうスペックのものを入れてくださいではなく、その時の予算に合う良いものを選ぶという感じですか。

事務局 その場所に適したものを使用するようにしていますので、いろいろな管の種類で、全てが統一でということではございません。

 ダクタイトの継手に関しましても、すごくいろんなタイプがありまして、そのあたりを考えながら選定しています。最初に出ました「A型」とかっていうのは、現行の基準では耐震型ではなくなっています。

 ダクタイト鋳鉄管「NS」というのを輪島市が入れていたみたいですけどそれでもダメだった。よくいう想定外だった。普通は外れるはずのない継ぎ手がポンと外れてしまったという事象があったようです。

 甲賀市もできるだけ更新する際には、ダクタイトの最新型を入れていくようにしておりますので、これからまたメーカーさんや、日本水道協会の方から、そういったところで新しい研究がなされると思います。

会長 読めるものではない。毎回、想定外ということが起こって、その中でもベターな解決を現場ではされている。むしろ、今回のような、何か起こっても

フォローできるような体制をしっかりと行きましようということで、国全体ではやっている。今回でもすぐにパッと駆けつけるというようなことができている。

その点ではたぶん世界で一番災害に強い国では。

会長

インフレも予想外のものがくると、その数字は外れていくけれども、とにかく将来計画を立てないことには今の動きが取れないので、これが当たった、外れたという議論ではなくて、とにかく計画を立てて、今の動きを取るのが大切ということでご理解いただければと思います。

会長

他に意見・質問もないようですので終了します。